

1 学校教育目標

心豊かに 生き生きと 学びを創る子の育成

2 学校経営ビジョン

- ◇ めざす学校像 『わかる・わかる・活動する学校』 ・楽しく充実感に満ちた学校(生活)
 - ・創意ある生き生きとした学校(学び)
 - ・地域とともに歩む学校(特色)
- ◇ めざす子ども像 『逞しく生き抜く力を備えた子ども』 ・五つの光、「健・心・知・行・和」を求めてやまない調和のとれた子ども
- ◇ めざす教師像 『高きに和して協働する教師団』 ・教育愛に満ち、実践力のある教師
 - ・常に研修に励み、高い専門性を求める教師
 - ・児童・保護者および地域社会の信頼と期待に応える教師

3 本年度の重点目標

- ① 魅力ある学級経営・協働体制の学年経営の推進を図る。
- ② 小中のスムーズな連携に向け、小学校期の学び方、学びの進め方、家庭学習の在り方等についての研究を深め、児童の学びの習慣化と他教科への指導力の転移を目指し、学力向上と指導力向上を図る。
- ③ 小中連携の取り組みを充実させ、よりスムーズな「学びの連続」と「円滑な移行」を図る。
- ④ 教育活動全体に、地域の人材や環境を生かした体験活動を取り入れ、郷土に根差した心豊かな児童を育てる。
- ⑤ 児童の情報の共有化と組織的な支援体制の充実を図り、不登校や発達障害、問題行動等、個別に支援を要する児童の指導を計画的、意図的に行う。

4 前年度の成果と課題

- 神野小マニフェストを明確に示し、学校目標達成に向けて全職員で計画的かつ積極的に取り組むことができた。学級経営案を作成、配布し、年度初めや2学期末に取り組み状況を知らせた。
- 幼保連携会議を3回実施し、1・3・6年で交流活動を行うなど充実していた。小中連携では相互の授業公開や研究協議会、小中合同ワークショップや小中交流など取り組みの推進が図れた。また、地域諸団体との連携を図り地域人材の導入拡大を進めた。
- 学校目標や経営方針の周知については、学校だよりやホームページに負うところが大きかったので、各学年や担任レベルでの周知を積極的に行う。
- 学力向上について、算数科における児童の「考える力」「表現力」の育成を継続するとともに、「言語化」と「活用」を促すため指導のあり方と見通しの持たせ方を重点項目として活用力の育成を図る。

5 総括表

① 魅力ある学級経営・協働体制の学年経営の推進を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	本年度の学校目標及び重点目標の周知	・学校目標や経営方針を児童や保護者、地域の諸団体に周知する。 ・学校目標の児童・保護者の認知度を90%以上に上げる。	校長 教頭	・全校集会や学年集会等で児童に具体的に説明していく。学年主任や担任による周知を積極的に行う。 ・PTA総会や懇談会、地域の会合等を利用し、保護者や地域へ周知徹底する。 ・学校便り、学校HP、学校ブログ、学校パンフレットなどを活用する。
学校運営	○学年・学級経営	学年・学級経営の充実	・年度当初に学級経営案を作成し、学級経営に生かす。 ・学級経営案の取り組み状況を知らせる。 ・学年の協働意識を高め、職務の効率化と児童への指導の充実・徹底を図る。	○坂井 学年主任 西村清	・作成した学級経営案を保護者に配布し、経営方針を伝え、年度後半にはその結果の自己評価も伝える。 ・夏季休業中に、全学級の経営案についての共通理解の場を設定する。 ・定期的に学年主任会を開催し、学級・学年全体のことについての共通理解を行う。

② 小中のスムーズな連携に向け、小学校期の学び方、学びの進め方、家庭学習の在り方等についての研究を深め、児童の学びの習慣化と他教科への指導力の転移を目指し、学力向上と指導力向上を図る。
③ 小中連携の取り組みを充実させ、よりスムーズな「学びの連続」と「円滑な移行」を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	教師の指導力向上	・小中連携活動を校内研究に位置づけ、「円滑な移行」「授業改善」の基本である生徒指導(生活指導、学習指導)と、それを支える地域・家庭との連携を土台に、教科指導において、『習得』『活用』『探求』を連動させ、「思考力」を育てることを目指す。今年度も算数科を中心に授業研究を進め、教師の指導力向上を目指す。	○柴田 主幹 西村清	・各「学び部会」を中心に研究を推進し、年6回の全校授業研究会で研究の進捗状況を見ていく。 ・研究主題の具現化のために、全員授業を前提とする。問題解決力を高めるための指導に重点をおき、児童の「考える力」の更なる育成を図る。
学校運営	○小中連携	成章校区三校連携による円滑な移行と授業改善	・小中相互の授業参観や児童・職員間の交流を設定し、9年間を見通した生徒指導の充実と確かな学力の定着を図る。	○柴田 主幹 西村常	・中学校でのワークショップ、小学校間児童交流等の実施による交流を行い、中学校への円滑な移行を図る。生徒指導上の共通理解事項を洗い出し、指導の継続化を図る。また、9年間の指導内容・方法の共通理解を図り、確かな学力を育てる。
教育活動	●学力向上	算数科を中心とした学力向上の取り組み	・標準学力検査などのテスト結果が全国平均2ポイント上回るような「わかる授業」の工夫に努め、分析結果を指導法の工夫・改善に生かす。 ・児童・保護者を対象にした学校評価アンケートの学力向上に関する項目における評価を85%以上に上げる。	○主幹 柴田 西 野口	・課題解決型の学習を意識し、授業の指導過程を大切に。特に「見通す」段階と「練りあい」段階での言語化に取り組み、自分の考えを持ち活用する子どもの育成をめざした授業改善に努める。 ・朝の時間の「計算タイム」「そろばん活用」などで、集力を育成する。
教育活動	○指導方法改善 (少人数・TT)	習熟度別・課題選択学習の充実	・全学年において習熟度や学習適正に応じた少人数授業やTTを行い、個人差に対応するとともに学力の定着を図る。	○柴田 西 野口	・個に応じたきめ細かな指導により、基礎・基本の確かな定着を図る。 ・積極的な授業公開やホームページ、「少人数便り」を利用して、少人数授業やTTのよさを保護者に伝える。

特定課題	●小学校低学年の学習環境改善充実	個別指導による基礎・基本の定着 基本的な生活習慣と学習習慣の定着	・生活面の指導については、特別支援教育の重要性を踏まえ、担任を中心として全職員による指導体制の充実を図る。 ・学習面については、一人ひとりにきめ細かい支援を行い、確実な学力の定着を目指すとともに、話を最後まで聴ける児童を目指す。	○川崎釘本野口	・学年または低学年での活動、グループローラー会議や縦割り班での指導など、複数の職員による指導と情報の共有化を図る。 ・家庭との連携を図りながら、家庭学習の習慣化を進める。 ・生活習慣・学習習慣に関することは、低学年部で共通理解を深めた上で一斉に行い、指導の徹底を図る。
教育活動	○家庭学習	家庭学習の定着	・学年に応じた家庭学習の内容や方法、時間などを学校全体で共通理解し、家庭と連携して学習への習慣づけを行う。	○西家庭の学び部会	・小中連携による「家庭学習の心得」を配布し、家庭への啓蒙を図る。 ・年に2回、家庭学習アンケートを実施し、家庭における学習習慣の定着を図る。
教育活動	○読書指導	学校図書館の活性化と個人読書量の増加	・全学年で「朝の読書」に努め、年間貸し出し冊数130冊を目標とする。 ・授業における図書館教育の活用を推進する。	○光石池野	・朝の読書の励行や連休前の貸し出し冊数を増やしたり、年2回の読書週間の実施により児童の図書館利用冊数を増やす。 ・読み語りボランティアの活用により、読書に親しむ態度を育てる。 ・授業で使う図書資料を集めるシステムの活用を促し、図書資料の活用を推進する。

④ 教育活動全体に、地域の人材や環境を生かした体験活動を取り入れ、郷土に根差した心豊かな児童を育てる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
学校運営	○開かれた学校づくり	地域との協働で市民性を育成 地域に信頼される学校づくり	・市民性を育む教育実践の充実を図る。 ・学校だより、学年だより、学校ホームページなどで地域ボランティア活用についての情報提供を行い、認知度を90%以上とする。	○真崎西村清教頭	・各学年の教育課程において、地域と連携を図った体験活動を計画的に行う。 ・地域人材の登用によるクラブ活動の充実を図る。 ・学校だより、学級だより、学校ホームページなどで地域ボランティアの活用について情報提供を行う。
教育活動	○総合的な学習の時間	体験的な活動を取り入れた総合的な学習の時間の充実	・地域の人材、施設、自然環境を積極的に活用し、体験的な活動の幅を広げる。 ・体験活動についてのねらいや成果に関する情報を、家庭や地域等へ積極的に発信し、学校外の支援体制の構築を図る。 ・5年生においては、キャリア教育を視野に入れたキッズマートを実施する。	○出口鶴田	・児童地域の実態に応じて題材を設定し、自然体験、環境体験、ボランティア体験等を学習の流れに計画的に取り入れる。 ・地域ボランティア等の専門的な知識・技能を生かした体験活動を充実させる。 ・家庭や地域への情報発信の場として、参観日の学習発表、学年・学級通信、校内掲示板などを利用する。 ・キッズマートを行うことで、一連の企業(販売)活動を充実させ、地域への情報発信を行う。

⑤ 児童の情報の共有化と組織的な支援体制の充実を図り、不登校や発達障害、問題行動等、個別に支援を要する児童の指導を計画的、意図的に行う。

教育活動	○生徒指導	共通理解・協働の生徒指導体制 あいさつ運動の推進 交通安全の推進	・神野小「あいさつ」の誓いの実現の意識を全校に広げ、全職員、全児童が取り組むことで生活習慣の改善を図る。 ・「あいさつ運動」の推進をはかる。 ・交通ルールを遵守させることで「交通事故ゼロ」を目指す。自転車や飛び出しによる事故予防を重点的に指導する。	○西村常林田鶴田坂井	・神野小「あいさつ」の誓いに沿った月ごとの「生活のめあて」を設定する。生徒指導協議会の前に反省と翌月のめあてで達成の具体的方策を話し合い全職員協同の体制で臨む。 ・「あいさつ運動」を活性化させるために、委員会活動とタイアップする。 ・交通安全教室での実践的練習や、安全マップの各家庭配布を行う。
教育活動	○教育相談・特別支援教育	グループローラー会議の推進	・特別支援教育コーディネーターを中心に、教育相談と特別支援教育を融合させた個別の支援体制を強化する。	○野口田平富永主幹	・全職員による支援体制を組織し、共通理解を図られるようにする。担当が抱え込まないよう専門家を活用し、効果的な支援を行う。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
教育活動	●心の教育	道徳の時間の充実 ふれあい道徳の実施 人権・同和教育の実施	・「ふれあい道徳」において、子ども、保護者、地域の方とともに、命について考える時間を作り、認知度を高める。 ・人権・同和教育授業実践や人権週間の取り組みを通して、児童の人権感覚を高める。	○江口川崎	・全学年が生命尊重を題材にした学習に取り組む。 ・各学年、全校で人権・同和教育実践を行い、実践交流を行う。
学校運営	○幼・保・小連携	基本的な生活習慣の定着	・年3回の幼・保・小連絡会議を開催し、挨拶の仕方や言葉遣い、正しい椅子の座り方、話の聞き方等について共通理解を図る。 ・担当者が直接訪問して、お互いの情報交換を行い、職員に広め、意識の共有化を図る。	○田平主幹	・お互いに気になることがあれば、すぐに幼稚園や保育園との連絡を取り合い、指導方針等について話し合う場を設ける。 ・幼・保・小の接続期の教育の円滑な移行のため、相互の授業参観・保育参観を実施する。
教育活動	●健康・体づくり	食教育の充実	・児童の発達段階に応じた食に関する知識理解と、感謝の気持ちを高める。 ・食生活改善の推進と、望ましい食習慣の定着を図る。	○山口出口富永	・養護教諭と栄養教諭が担任等とTTIによる健康と食に関する授業を計画的に行う。 ・元気もりもり週間を年3回計画し、委員会の児童を中心に具体的目標を設定して取り組ませる。また、家庭にも協力を依頼し、食習慣の定着を図る。 ・旬の食材を掲示板で知らせ、食への興味と感謝の気持ちを持たせ食べ残しを減らす。
学校運営	○危機管理体制		・事案発生における報告、連絡、相談、対応の体制づくり ・不審者と児童の問題行動への対応も視野に入れた校外・校内組織づくり	○妹尾西村常教頭	・危機管理における職員の組織体制について十分な共通理解を図り、各職員が役割を十分理解した上で即効性ある連携が出来るよう、避難訓練をはじめとして、年間を通じて訓練を継続して行う。 ・様々な状況に応じた避難経路について、検証を行っていく。(夏季休業中に防火シャッターを下ろしての避難経路の確認などを行う。)

●は共通評価項目、○は独自評価項目